



Title	堺市の保健所は何を見たか : 0-157集団発生渦中の金岡保健所
Author(s)	協会出版編集室
Citation	大阪公衆衛生. 1997, 69, p. 1-7
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/83751">https://hdl.handle.net/11094/83751</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 座 談 会

# 堺市の保健所は何を見たか

— 〇 - 1 5 7 集団発生渦中の金岡保健所 —

堺市金岡保健所 所 長	更 家 充		
次長兼公衆衛生課長	中 尾 雅 弥		
公衆衛生課食品衛生係長	山 田 米 重	保健看護第二係長	松 永 初 美
健康管理課 課長	上 山 佳 子	保健婦	一 條 みよ江
主 幹	渡 部 徳	保健婦	大 西 彰 子
主任	小 出 保 廣	保健婦	平 尾 英津子
保健看護第一係長	守 屋 操	保健婦	宮 島 伸 恵
保健婦	細 見 行 子	保健婦	宮 崎 英 子
保健婦	津 田 操	保健婦	倉 沢 伸 子
保健婦	有 森 る み		
大阪府貝塚保健所 所 長	山 階 学		
協会出版編集部 張	知 夫 福 島 俊 也	脇 田 洋 輔	

更家 今回の〇-157集団感染への対応は、7月13日から始まりました。この日は土曜日だったんですが、僕は保健所に出てました。10時頃に、ある開業医の先生から、10人ほど下痢血便の子供が来てるで、ちょっとおかしいという連絡をもらいました。その時は1つの小学校の児童に限られておったんですが、ちょっと事情をたしかめないかんということで、僕の方からよく知っている小児科の先生の何人かに電話をかけたんですね。うちも来てるで、うちここは何もない、色々の情報が返ってきました。

いくつかの病院にも電話をしました。やっぱり小学生がたくさん来てる、昨日の晩からやで、ということでした。それで、保健所の体制として、次長と食品衛生監視員さんに出て来てもらうよう連絡をしました。だいたい

小学生だということがわかりましたが、もっと詳しい状況がわからないと話しにならないので医師会の先生、校医会の先生に連絡して医師会のネットワークを通じての患者調査を依頼しました。

それから本庁の環境衛生課や他の保健所の所長、次長に連絡をして、とりあえず出勤をして欲しいと伝えました。その後、僕は本庁に入りました。対策本部は割合早くに出来たんですが、最初は規模がわからないまま、対策本部を作りましたんで、当初は環境保健局長が対策本部長、翌日に助役になって、その二日後に市長が本部長にということで、事件の大きさがだんだんとわかるにつれて、そういう体制にかわっていきました。

副本部長は、助役、教育長、環境保健局長、教育次長、堺病院院長でしたが、本部の中枢

には結局、行政の（公衆衛生の）医師がいなかったということです。その後はずっと本部につめていました。土曜、日曜であった13日、14日はもちろん、最初の3、4日は現状の把握、これがなかなか難しく、医療体制を作ることが最大の仕事でした。

大阪府の医療対策課、救急医療情報センター、医師会と連絡をとりながら進めました。17日以降はHUS（溶血性尿毒症症候群）の患者さんのための医療機関のネットワーク作りが重要になりました。子供の入院できる透析可能病院の情報をはじめ、重症患者の搬出に関する情報の一元化を救急医療情報センターにお願いしました。保健所の方の体制については次長にすべてお願いしました。

#### 6月の経験が生かせた

中尾 13日はたまたま食品衛生講習会を開く予定があり、12時頃には衛生係3名がそろいました。それで体制が組めた。そして、もう一つ言いたいのは、6月28日に金岡保健所管内で、O-157の患者が出ていた経験が、それなりに生かされたことです。

山田 6月28日に軽い血便の1才児からO-157が出たという連絡を病院からうけました。すぐに、家族検便を実施したら、保育所へいっている3才のお姉ちゃんが陽性だった。そこで市環境衛生課、児童福祉部、保育所等と至急協議をし、全園児、園関係者の検便、ふきとり調査、消毒等を実施しました。同室の3才児1人が陽性でしたが、結局原因はわからず、陽性者3人もすぐ陰性化しました。

中尾 このことを結論づけたのが7月10日でした。そのあと13日（土）に所長が言われたような状況が発生したわけです。その日の晩に、係長以上に、日曜出勤の指示を私、勝手に出したんです。出て来たら電話の対応も

できますんで。保健婦さんはすぐに自分なりに考えたパンフレットを作りはじめました。

食品衛生監視員につきましては、消毒やふきとり調査とか13日から動いていました。金岡保健所ではO-157ではないかという予想のもとで動いていました。

更家 6月28日のことについても、それなりに2次感染を心配して、もちろん消毒したりとか、あるいは検便の範囲を広げたりしてるんですけど、やっぱり全体としてみたら、食中毒としてのあつかいです。O-157対策を考える時には、衛生研究所と防疫担当職員や保健婦さんにも入ってもらわなあかん。その体制を作らなあかん和本庁にも言っとったんですが、その協議の前に、今度のがボカーと起きてしもた。6月28日についていえば、公衆衛生課は動いたけれど、健康管理課は入っていませんでした。

守屋 15日、すぐにでも何か動ける指示があるものと思って出勤したんですけども、本部の方の指示がないまま、やはり一番弱い乳幼児のいる保育所とか、訪問が必要やということで、所長の了解は得て行ってもいいという事で、午後から出ようかなと思った時に、他の部局との調整があるので、一時それは見合わせてくれっということでも断念したんです。17日はいくらまっても指示がないので、強引に実施しました。それと同時に管内の有症者の出ている小学校を、各担当の保健婦が回って、これが情報交換という面では、すごく良い結果を生んだと思っています。

松永 地域、学校によっては、すごく保健婦の訪問を待っていましたという感じで、いろんな情報交換ができたというところもあり、反対に、ある学校は、きちんと本部を通して、筋を通して来てもらわないと困るといわれた学校もありました。

更家 今度の場合の一番大きな特徴は、結局たくさんの学校で、たくさんの子供達が患者になったということです。これが一つの学校であれば、校長先生と会い、保健所が関わることで対策もとれるし、あるいは色々なことをまかせられる。

ところが、たくさん学校の発生しましたので、各学校も本部の指示を待つといった形になってしまった。そんな時に本部の方は、命にかかわる医療体制をつくるということに追われていましたので、なかなか指示を出せなかった。保健所に必要な情報を送ることも出来なかった。本部が保健所の次長、課長を召集したのは7月17日です。

### やり場のないつらさ

張 こういう風なことで非常に困ったとか、そういうことで発言していただませんか？

平尾 あの頃、すごく暑い時で、丁度訪問して2次感染予防をしているときに、みるとビニールプールで子供達を遊ばしていたんですよ。

一番危険なんですよ。団地の前で小学生のお兄ちゃんやら、近所の子供たちが、すごく楽しそうにして、それをやめてくれとは言にくかったんですけれど、2次感染予防の為にビニールプールをやめてほしいと言ったら、「子供達を家の中にはっきりとじこめているから、ストレスをいっぱい感じて。ちょっと身体を動かさなければ寝られないから、どうしてもやらしたい」と言いはったんですよ。

その時になんか、いきどおりというか、やり場のないつらさというのを感じました。たしかに正しい情報が私らも入ってなかったので、どういう風にわかってもらったら良いのか困りました。

渡部 私は7月27日から、医療相談コーナー

というのが始まりまして、そこに主として専属でついてたんです。そこは医療相談のほか、菌プラスの人に電話で通知して、症状のない人だけこちらへ来ていただいて、症状のある人と乳幼児は医療機関を紹介しました。

結果がでるのに時間がかかったんですが、家庭によっては10日目に出てきたり、それですごくしかられたり。こんだけ遅かったら、てっきり陰性やと思いはって、遊びに行ってしまうはって、よその県から「どうして堺からだしたんや」とか、いろんな事を怒られました。

倉沢 一番心に残っているのは、お母さんが食品製造業のお仕事についているんですが、その方の子供さんが発症したということで、お母さん自身も検便をして陰性だったんだけど、火を使う仕事しかさせてもらえないということで、それがボイラーの仕事ですね。夏、暑い時に、そういう熱い仕事しかさせてもらえない。食品を直接あつかう事はできない。そういう職場で偏見があるからつらいなということで訴えられました。

### 検便の受付と乳幼児検診

張 乳幼児クリニックはどうしました？

細見 幼児教室はすごく怒られたんですけど、やめたんです。もうようせんと言いました。乳幼児検診は、医者とかの都合もあるし、やめれないということでした。検便の受付ははじまり、量がふえて来て、実際に同じ一階のフロアを使っていましたので、そのとなりで赤ちゃんが来て、それはすごく危険をみんな感じました。

津田 19日に小学校を回って、その中で入院の方のリストとかもらう時の緊張は大きかった。学校と今まで一緒に仕事することがあんまりなかったんです。その中で「はじめまし

てということが、こんな時じゃなかつたらよかったのに」という話は良く言っていたんですけども、「もしかめへんかったら訪問いかしてもらいたいんやけど」というときに、快く住所やとか、兄弟おるんか、おらへんとか、そういうことまで書いたリストくださった学校もあってそれがすごく有難かったんです。

### 生の声が聞けた

大西 私も保健婦として、今回の〇-157にかかわらせていただいていたことは、一番生の声をお母さん方とか、家族の方とか、学校の先生とかから聞いたことだと思います。小学校の大きな子供さんがいる家とかに訪問したんですけども、2次感染予防ということで行って、実際に行ったら、そんな話になかなかどりつかなくて、お母さんがどれだけしんどかったかとか、行政に対する不満とか、そんな話を聞くことがやっぱり多かったりして。

訪問する中で、毎日毎日お母さんの気持ちが変わっていているのを、私すごく聞けたんやないかと思います。

一条 公立の保育所とかだったら、保育部からの電話あったと思うのですが、民間の保育所とか、赤ちゃんホームとかいうところは、あまり情報が入らなかったということで、やっぱり保健所からはじめた訪問は、すごく良かったということなんでしょうね。あとからいろんな相談というのもあったし、日頃ちょっとあんまり行けてなかったところなので、そういう点は、あとから関係とるのには良かったと……。

更家 行政、医療関係者、保健関係者の中でも、〇-157が必ずしも認識されてなかったということがあります。堺市全体をとって考ても、〇-157についてレクチャー出来た

人は少ない。

2次感染予防をいうなら、やっぱり当初から一番危険で予防活動が必要な時は、20日ぐらいまでのひどい下痢をしている時です。実際、組織的に保健婦さんに動いてもらしたのは、その7月20日からでした。それは皆が残念がっています。

松永 発症当初、まず訪問といわれても、ほんとに十分な指導が出来なかったんですけども、この1週間のブランクの間に、我々は知識をたくわえたというのでしょうかね。電話相談をうけても、食品さんに電話をふって、そこへ行ってどんな答をするのか聞いてみる。情報を伝え合う期間として、この1週間は有益でした。それでも、現場へ行って具体的な質問をされると答えられないこともありました。

更家 学校の先生あてには、衛生部最初から2次感染予防上のパンフレットを作って、15日か16日に渡しているんですね。保健婦さんは直接2次感染予防を指導してもらいたい。

でもどこの誰が患者なのかリストもない。担任の先生は30人とか、40人を一クラスで持っていて、実際、家庭訪問をくりかえしているのですから、そこをおさえようというのが、まず本部の考え方だったんですね。

だから、早い時期に2次感染ということに対象をしぼったパンフレットを作ったんですね。患者リストがやっと手に入って、20日からいっせいに訪問活動をしてもらおうと決めた時、府の保健婦さんに応援依頼をしました。

小出 7月20日大阪府の保健婦さんが応援に来られたんです。これは我々にしたら実は不本意なことだったんです。不本意というのは、我々がまだ組織的に動いてない中で、応援に来て何するんやろかということが一番最初にあったです。そして、悔しかったのは、

その保健婦さんがレクチャーをきちっと受けて来ておられたということです。そういうレクチャーは堺市の保健婦にきちっと出来たんだかなあというのが、僕の悔しさの中にはずとあるんです。

もう一点は、もう少し予防の面で、医療機関で何故出来なかったんだろかなあという思いがありますね。医療機関は患者に対応するのに精一ぱいだったから、そういったあたりまえの教育が出来てなかったんだろなというのが感じます。

### 学校との連けいの取りにくさ

それと、学校と連けいの問題で、教育委員会というのは、都道府県直轄で、市町村業務である保健所の業務と、教育委員会との連けいの取りづらさということがありました。

更家 一般的には、広報活動で2次感染予防はこうですよというのは、ビラを配るとか、車を回すとか、時には飛行機を使うとか、方法もあるわけですが、具体的に患者さんの家に行って、個別に指導してもらいたいと思っていたんです。

そのためには、どこの家の子供が症状が出てるのか、そこには小さい子供が他にいいのか、あとは大人だけなのか、実はそのリストが必要だったんですね。それが教育委員会からなかなかもらえなかったんです。そして、いざ、という時に、堺市全体で40人余りの大阪府の保健婦さんが支援に入ってくれることになったんですが、そのことを保健所に連絡した時に、結構抵抗がありました。

守屋 その間、我々がしたくないということではなくて、しないといけないと感じながら、指示がなかったことに対して抵抗がありましたね。

更家 ほんとに一番ベストな状態を考えた

ら、担任の先生が家庭訪問する時に、それぞれに保健婦さんをつける。保健婦さんが言うことと、担任の先生の言うことはその視点も、巾も、広さも違うんです。保健婦さんに言ってもらわないかんことがあったんですね。

小出 岐阜ではそういうことがやれたんですね。それは小規模でしたから。堺みたいに何か所も起きている形だから、それが出来なかったということはよくわかるんですけども、それくらいなことは、ほんとうはして行かなければならないなあ、という気がしましたね。

更家 それはいろんなところでいえるんですね。今度規模が大きすぎた。たとえば、喫食調査というのは、食品衛生監視員さんが専門家なんですね。けどもうちの食品衛生監視員さんも、全部の喫食調査が出来なかったですね。やっぱり学校の先生にお願いせざるをえなかった。

小学校の児童全員に喫食調査をするという方針が出たんですけど、それが妥当であったか、ということも考えないかんと思うんですね。あるいは検便にしてもそうなんですけど、ある時点で無料検便があって、みなさん検便を受けましょう、という広報が出ちゃったんです。一回出たらもとへ戻せない。保健の考え方から言ったら、当然優先順位があるわけです。暴露校の子供からやってもらいたい。

そして、7月23日に子供が亡くなりました。そのことでパニックが起きました。そしたら、本来なら受けなくてもよい人がどっと検便に来た。そのために、必要な人の結果把握がおくれたんです。保健の基本的な考え方と違う所で、政策が決まっていたところが残念ながらありました。

中尾 私もつくづく感じたのは、結局、各部署の連絡網がスムーズに流れていなかった

という点です。

**更家** 本部自体も中々大変やったですけど、本部と保健所、本部と小学校の個々の先生の間との関係、連絡がしんどかったですね。

**中尾** 私等も本部に電話かけて、待ってたかて、プツンと切れるんですよ。こういう形で動かしてよろしいですか、と指示を仰ごうとして、所長と連絡とろうと思うかて。はじめは携帯電話もなかったし。それでも金岡保健所としては動き出しているわけです。2次感染予防のパンフレットもこしらえて。本部では、1本の電話で1時間、2時間位話をしているようなこと、何回もあったんでしょう。本部かてパニック状態になってたと思うんですよ。指揮命令系統がはっきりしないので、当初、私達の判断で動きました。

#### 府保健所と政令市保健所

**張** 山階先生は大阪府の貝塚保健所の所長さんですね。貝塚でこんなことがおこってたら、金岡保健所の場合よりうまくいったでしょうか。

**山階** 貝塚でもし起こってたら、うまくいったと僕は信じております。というのは僕自身、昨年豊中保健所にいまして、震災にあいまして、その時に初動体制のことは、やはりものすごくいわれておりました。豊中市の防災計画にもタッチしましたし、その中で、やはり横の連けいというのがものすごく大切であるということを教えられました。あの昨年1月17日の震災以来、ほんと気がついてみたら、もう5月だったというぐらい毎日がいつも夜中なんですね。

ようやく今年まとめたのが出たんですけど、やはりその中には反省点ばかりなんです。出てくるのはやはり、これは府とか、市とかいう枠をのりこえた連けいというのが一番必要

だということです。で、実は今年の6月に岡山で〇-157が出て、6月の最初に河内長野で、大阪府としても保育所が出てたと、そこから辺で市の助役と部長を呼んで、対策本部を考えろ、その本部にしても中途半端な機構は作るな、と言いました。

たまたま貝塚市長が外遊しまして、部長が責任者、助役がその上に立つということで、ほんと1週間程つめてつめて、なにせ横の関係と、地域の関係機関、医師会、歯科医師会、薬剤師会、すべてを含んだ大きい組織図が出来上がってたんです。だから、もしああいうのが起こってたところで、やはり僕自身が震災の経験というのが、ものすごく、今となっては生きたのかなあと思っているんですけど。

だから対策本部でも、市と保健所だけではなしに関係機関全部呼びました。その時点で教育委員会も入ってます。だからあくまでも〇-157を念頭においてじゃなしに、本当にエーマージンシーをとということ念頭においた組織図を作りあげてしまいました。

**更家** 今のことで、結局、府の保健所と政令市の保健所との違いが如実に出てくるんですね。山階先生なら、市を呼んでといういい方が出来るんですね。市長を呼んで、助役を呼んで、集めて、何々が出来ると。

堺市の場合は、政令市だから、保健所の上に衛生部があって、局があって、助役さんがいて、市長さんがいる。僕ら、市長さんを呼んで、対策を指示するなんてこと出来ないですね。それは、本庁機能ということで集約されているんですね。

その違いは、今回いろんなところで、ものすごく感じましたね。

**山階** 僕自身も、7月19日に堺でお手伝いさせてもらって、そこはほんとに感じました。やはり政令市というのは、こういうむつかし

さがあるんだなあ。

更家 いいところもあるんですけどね。

山階 僕の場合は、府ということで市長、助役と話をするにしても、やはり遠慮するんですね、どうしても。堺なら、同じ市の部局内だから、もっとフランクなんかなという風に考えてたら、大間違いで、まったく逆だった。

更家 それは縦につながってるですね。

山階 ほんとに一つの市の中で、保健所すべてを持った場合、こういうむつかしさがあるんだなあというのが、ほんとわかりました。7月19日は一番のパニックだったと思います。僕が堺の助役から依頼が正式に出て、7月19日2時半に堺市役所に行きましたが、皆さんから声をかけていただいたのが4時です。その間、1時間半、同じ所にぼーと立っただけなんです。

更家 先生、その時どこにいたんですか。

山階 それ知らんでしょう。先生の横にずーと立ってたんです（笑い）。本部にいて更家先生の横でずーと立ってたんです。

更家 その時、電話を受けてましたか？

山階 そうです。電話が1本かかって来て、僕、目の前で見てるんです。1時間半電話かかりきり、その1本で更家先生ずーとなんです。

中尾 14日の日曜日に厚生省の人がこられて、局長室に5時についたらしいんです。それで、局長と部長に会えたのが9時（笑い）。私等、本庁へ1回も行っていないんですけど、その辺の状態がわかります。

更家 今回、堺へはたくさん、実にえらい人が来てくれはってたんす。でもバタバタしている中で、十分教えていただくことができなかった。

張 それをせめて生かせる方向に活用出来ていたらと思いますね。

ところで、本当に残念なのですが、時間がなくなってきました。まだまだお聞きしたいことがいっぱいあるのですが、勤務時間を大幅に超過してしまい、申し訳ありません。ありがとうございました。

（文責 協会出版編集室）



1996年10月15日 金岡保健所にて